

平成29年産 米の初検査

【生育概況】

本年の水稲の生育は春先の融雪が早く、気温も高かったことから苗の生育は平年並みに推移しました。5月の移植作業は順調に進み生育も順調でしたが、6月は一時低温や日照不足により生育はやや緩やかに経過したことにより、幼穂形成は平年よりやや遅れ気味となりました。

その後7月に入り、高温で日照時間が多かったことから、生育は平年並みに回復していましたが、9月中旬の収穫直前に台風が北海道に上陸したことや、その前後の低気圧の影響から一部地区にて倒伏や収穫の遅れが発生したことから、今後も的確な状況判断のもと、各種作業をすることが重要であります。

【検査概況】

本年産の米の検査についても平年並の9月上旬に上川・空知地区より開始され、その後の地区でも順次検査が始まっています。

現在の品位は充実度が良いものの、一部で腹白、心白粒が散見されておりますが、検査基準内となっております。

また、本年より「新農産物検査帳票システム」が導入され、全道の従たる事務所で一斉に稼働しております。

【検査風景】



(JAたきかわ 芦別検査場)

【新システム操作風景】



(JAきたそらち 広域農産物検査場)